



ヨゼフ・アベイヤ司教認可
発行所 福岡教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡教区
編集人 山元 眞
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡教区
カト 定価 1部70円

11月の意向

【教皇の意向】 子を失った親
【日本の教会】 日韓司教交流会

2024年11月24日 世界青年の日にあたって
疲れていますか

ヨゼフ・アベイヤ司教 (福岡教区長)

「世界青年の日」は、1984年、贖いの聖年の開幕ミサで聖ヨハネ・パウロ2世教皇が、世界の青年たちに、翌85年の受難の主日にローマに集まるようにと呼びかけ、世界の約60カ国、30万の青年が、教皇の呼びかけに呼ばれてローマに集まったことに始まり、翌86年から受難の主日に祝うように定められた。以来、毎年この日に、世界の青年たちに向けて「教皇メッセージ」が送られている。※教皇フランシスコは各方面からの要望にこたえ、2021年から「王であるキリスト」の祭日に変更することを発表した。



カタルン開設の懇親会でソーラン節を披露する福岡教区の青年たち

今年11月24日は、教皇メッセージを送り、今年も同様です。メッセージの最初に教皇は、イザヤの言葉を借りて青年たちを励まします。「主に望みをおく人は、歩いても疲れることがない」(イザヤ40:31)。

今年11月24日は、教皇メッセージを送り、今年も同様です。メッセージの最初に教皇は、イザヤの言葉を借りて青年たちを励まします。「主に望みをおく人は、歩いても疲れることがない」(イザヤ40:31)。

でもそうです。確かに、疲れを感じる時があります。特に、現代のような劇的な状況を考えるとその疲れは重いのになります。戦争、あらゆる形の暴力、差別、不正、人身取引、自然破壊などにさらされている現代社会の中で希望をもって歩むのは簡単なものではないかもしれません。どこから歩み続ける力をいただけるのでしょうか。イザヤのことばは、非常に苦しい状況に置かれていた人々に、その源泉を示します。「主に望みをおく人は、歩いても疲れることがない」(イザヤ40:31)。

福岡教区の青年たちの活動

11月4日(月・振休)に福岡青年大会が旧神学院で行われます。青年たちは一所懸命準備してくださっています。テーマは「COMEB AND SEE! 境界をこえてイエスのもとへ」になっています。共に歩む力をいただく場になると確信しています。また、大名町の福岡カテドラルセンタリーに、今年4月の終わりに「青年センター・カタラン」ができました。少しずつ

第3回 教区全司祭集会

病気や障がいとともに生きていく方に対する心の支援について

2024年9月24日(火)、カトリック大名町教会にて本年度第2回福岡教区全司祭集会が行われ約40人の司祭が集まりました。前回は障がいのある方、そのご家族、支援者の方々の声に耳を傾けた。今回はその流れを継ぎ、障がいのある方、精神疾患のある方への関わり方、知識などを専門家である原口芳博氏(原口力

時の話題

福岡教区信徒使徒職協議会 解散

全世界に分断と閉鎖をもたらした新型コロナウィルス。コロナ禍明けのIT進化は時間、仕事、ライフワークを一変させ、それは信仰生活、教会活動をどう変えてしまいいました。中でも、53年間続いた福岡教区信徒使徒職協議会の解散もその一つです。少子高齢化、司祭修道者の減少、神学院の閉鎖、各地区における役員への負担等様々な要因があります。長らく支えて下さった信徒の皆さま、歴代、現在の各地区の代表者、アクション団体の皆さまに感謝を捧げるとともに、お詫びを申し上げます。現在は、教区長アベイヤ司教様のもと、福岡教区宣教師司牧方針が発信され、教区宣教師司牧評議会の設立に伴い各地区にも宣教師司牧評議会が設立され活動しています。

2023年に教区100周年を迎えた広島教区の各教会は、「平和の使徒になろう」を掲げ、一致団結し平和を叫び続けてきました。そして遂に、10月11日(日本時間)被団協(日本原水爆被害者団体協議会)にノーベル平和賞の受賞が発表され、平和の使徒を証しする市民、信徒の耳に届きました。福岡教区の私たちは何を掲げていきたいと思いますか。10月27日(日)には、福岡地区信徒使徒職協議会が開かれ、これからの活動を提案する予定です。「恐れることはない」と主の言葉が響きます。多様性の世の中で、「出向く」「支え交わる」「未来を開く」を推進する司牧方針のもと、中心となる教区宣教師司牧評議会とその中の5つの委員会を、私たち信徒は、すべての垣根を越えて支える友愛の使徒になりたいものです。

福岡教区信徒使徒職協議会 会長 濱崎 公夫



講話に耳を傾ける司祭たち

活動を充実していきます。これらの企画を実行していく中で「疲れ」を感じる時があります。イエスとともに歩むに、また、仲間とともに歩むなら、この疲れが癒され、希望が生まれます。各地区の青年の歩みを皆で支えていきたいのです。教会全体はそれによって力づけられます。「疲れた」という誘惑が何回も表れます。イエスとともに歩むなら、将来に向かう私たちの心は喜びと希望に満たされたいのです。ヨゼフ・アベイヤ

「私たちは、心の病のある方々を同じ人間として、寄り添い、救いを求める『求道者』として温かく迎え入れるように努める。回復を信じて傾聴し、その人の隣人となり続けること、また、黙想と祈りを通して相手との豊かな出会いの準備(魂・体・心・環境)をし、心身を鎮め良き『神の道具』となるよう自分を整えておくことも大切である」と、原口氏は語る。また、「聖霊の働きを感じながら、神の道具として相手の心に愛をこめて接していくことで、相手に希望と勇気、自分で解決する力が湧くようにサポートする関わり方も大切である」と話す。自分たちの力を過信することなく、支援が難しい場合は、速やかに適切な機関や専門家に委託することも必要である。相手に寄り添いなが

みちくさ

◆ 福岡教区宣教司牧方針を受けて ◆

2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介しています。「宣教司牧方針」は右記QRコードからご覧になれます



カトリック学校の取り組み



研修会の様子

8月2日(金)、旧カトリック神学院で「福岡教区カトリック学校中堅教職員研修会」が開催されました。コロナ禍での中断を経て開催された研修会には、福岡教区で活動する12の小中学校、中学校、高校から先生方が集まりました。冒頭アベイヤ司教が、盲人の目を開かれたイエスについて触れ、立ち止まり歩み寄っていくイエスの中に、カトリック学校で働く者のモデルを示されました。その後も美野島司牧センターのマルセル・コース神父、イエズス会の梶山義夫神父が講話を行い、グループで分かち合うという充実した1日をもちました。ところでこの研修会の参加者の多くが、今の学校に勤めるまでカトリックやキリスト教とは縁のなかった先生方です。ご存知のように学校現場で働く司祭・修道者がほとんどいなくなった現在、信徒の教員と一緒に学校説明会でカトリック学校についての説明をしたり、校内でのミサや宗教行事を運営するのは、このような先生方なのです。信徒ではない生徒たちも学校でイエスの教えに触れ、祈りや奉仕の心を身につけて社会へと出ていきます。このように福音宣教の場であり教会の一部でもあるカトリック学校が、多くの信徒でない先生方の理解と協力の上に成り立っていることをより深く正しく知ること、そしてともに協力することが私たち教会共同体に求められています。まずは平和を祈る集いや炊き出しなどに参加するカトリック学校の生徒たちに関心を寄せ、仲間として声をかけてみてください。

上智福岡中学高等学校 深堀伸一 (大名町教会)

厚生労働省が、9月15日時点における年齢を基礎として、100歳以上の数を計上した2024年の結果は、全体で95,119人。男性11,161人、女性83,958人で約88%が女性であった。「人生100年時代」と言われ始めて久しいが、内12%の男性の中に、我が福岡教



アベイヤ司教(右)とミサの中で「主の平和」を交わす共同司式の山頭神父(左)

祝山頭原太郎神父100歳誕生日

多くの人の歓声と歓喜に包まれて

区司祭がいます。ミカエル山頭原太郎神父、1924年9月20日生まれ、100歳！紀事を祝う記念感謝ミサが9月22日(日)、ヨゼフ・アベイヤ司教、福岡教区長留米教会にて捧げられた。ミサには、山頭神父が泰星高校(現上智福岡高校)で教鞭を執っていた時の教え子でもあった森山信三司教(大分教区長)も駆けつけ、他司祭12人による共同司式で、信徒も午前中の主日のミサに参加したのち、多くの教会から集まり2000人が聖堂を埋めた。アベイヤ司教が、山頭神父



70年以上にわたる奉仕への感謝とその業績を讃えて始まったミサ。「優しい司教さまが、説教は山頭神父様で」と残酷なことを仰ったんです」といつもと変わらぬユーモアを交えて話す山頭神父は、「人に支えられてしか生きられないようになってやっとな横着だった自身を恥じ、今は心から感謝しています。学校畑で司祭としての奉仕は少なく失敗ばかり。今はミサが出来る喜びを感じ、皆さんのために祈り続けます」と話した。挨拶に立った森山司教は「神

父様は自分の人生は失敗ばかりだったと仰るが、自分の弱さがありのままに表されることに、これだけ集まった信徒や司祭の私たちがどれだけ勇気づけられ、力をもらったか分かりません。なので立場上被っているこの帽子は神父様もふさわしいと思います」と、自分のズケット(ピンクの帽子)を山頭神父(左)の頭に被せる森山司教(右)がある介護老人保健施設「聖母

より豊かな会話のために 教区宣教養成委員会 講演会

- 「会話における言葉の2つのはたらき」
1. 「話す」と「聴く」
2. 「言葉による伝達」と「言葉によらない伝達」
3. 「何を話すか」と「どのように話すか」
4. 「討論」と「おしゃべり」
5. 「共感する」と「合わせる」



児島氏の講演の模様

の調子、身振りを見て感じて、聞き手は相手を受け止めます。同じことがらであっても、相手や場面によって話し方も聞き方も変わります。聞き手は、分からない時には尋ねて確認し、そして互いに「聴きあう」こと、相手の気持ちに寄り添う「共感」も大切です。簡単ではありませんが、私たちはお互いそれぞれが違う存在であることを前提に、ほどよい信頼関係を築いていければ、

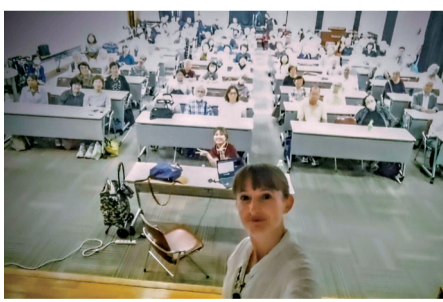
遠藤周作 生誕100周年 記念講演会 テーマ「心のふるさと日本を語る」

10月6日(日)、大名町教会講堂で福岡地区信徒使徒職協議会主催による、ユステイナ・ペロニカ・カシヤ氏(西南学院大学・外国語学部外国語学科教授)の講演会が開催され、約120人が集った。講演のタイトルは「2024年遠藤周作生誕100周年」心のふるさと日本を語る。カシヤ氏はポランドで生まれ、日本語研究者の父親と共に来日し、2歳から8歳まで札幌で生活。帰国後、日本文学や演劇を学び、英国で日本文学博士号を取得。ハ一の家」で生活していることもあり、久留米教会が記念ミサを計画した。「県内外から多くの人が集まり、山頭神父様の変身やおられたので、私も達成感で、準備や当日の案内・進行等の疲れが吹き飛んだ」と担当者たちも感無量で喜びを分かち合っていた。最後の集合写真の後、「次は私たちが」とひっきりなしの個人撮影の願いに応じていた山頭神父は、羊のいる牧場そのものであった。

9月23日(月・振休)、大名町教会講堂で、「つながら喜びより豊かな『会話』の中で心に届く言葉を養うためのヒント」と題して講演会が開催された。主催は教区宣教養成委員会(委員長レナト・フィリピーニ神父)。講師は心身障害者施設や病院企業での指導員、大学教員を経て、現在フリーで活躍している臨床心理士の児島達美氏(浄水通教会)。来場者は75人。講演より一部を紹介する。「私たちは日常の挨拶から大切な話し合いまで、言葉を使っていますが、その言葉は果たして相手に届いているのでしょうか。言葉は話し手から聞き手に届いたとき、はじめて意味を持ちます。実は言葉は、それだけで全部が伝わるわけではなく、言葉が発しているときの顔の表情や言葉

モニカ伴奏で「ふるさと」を斉唱して講演は始まった。複数の言語を話すカシヤ氏は「言葉とは自由を与え、他者との出会いを生むもの」として、自身の生い立ちや経歴を語り、「文学には他者の声を聴くという大切さがある」とし、遠藤周作を主とする研究の話や今後の抱負を語った。「翻訳の難しい所は」との会場からの質問に、「日本語には『沈黙(の時間)』にも意味があり、外国語に訳す適した言葉が無いものもあるが、出来不出来でなくプロセスが楽しい」と答えていた。

来場者からは「日頃の会話での自分の態度について再考させられました」、「夫婦間、親子間の会話を見直したい」などの声が寄せられた。教えることが好きだと言うカシヤ氏。質問に生き生きと答えるところには日頃の大学で教鞭を執る姿が想像できた。会場からは、「もう一度読書を楽しみたい」、「先生の本書が読みたい」、「先生の毎週のミサから力を頂いている」という話が心に残った。最後の声がかれた。最後は皆でアヴェ・マリアの祈りを唱え、カシヤ氏自ら会場の写真撮影を行った。



講師(中央)自ら自撮り棒で撮影!

福岡地区信徒使徒職協議会 副会長 原桂子(老司教会)

サンパウロ 福岡宣教センター
営業時間: 10:00~18:00
定休日: 日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅(新築・改築工事)
・鉄骨工事
・RC工事
森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！
福岡教区内の
修道会
宣教会②⑥

「お茶にしましょう！」



福岡教区には現在 30 の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。

昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第 26 回は、お告げの MARIA 修道会です。

お告げの MARIA 修道会

私たちお告げの MARIA 修道会は 1873 年（明治 6 年）、日本の記念すべき禁教令解除の年の翌年に芽を出しました。「創立者は神様」と創立者を特定していない修道会は稀でしょう！

種をまかれたのは神様、種を受けたのはキリストの乙女たち、そして水をやり育ててくださったのはパリ外国宣教会（パリミッション）と教区の司祭たちでした。当初より司祭・教区が一体となって地域の中で歩み続け、今に至っています。

本部を含め 30 あまりの支部はほとんど長崎にあります。東京の駐日ローマ教皇庁大使館、福岡（来年 3 月までの予定）、フィリピン（去年より活動）でも小さな奉仕をさせていただいています。日々をキリストの愛の掬に従い、神とともに生きることが第一の基準として、「私は主のはしため、お言葉通りになりますように」と言われた MARIA 様のフィアット（Fiat）の精神になり、教会への奉仕、医療事業、社会福祉事業に携わっています。

私たち福岡修道院は 2 人だけですが旧神学院にひっそりと暮らしています。その中で毎週日曜日の午後 3 時～4 時まで小さな Café を開いています。手作りのお菓子〔市販の時もあります（笑）〕とコーヒーでおしゃべりしましょう！だれでも OK、無料ですが、フィリピンの活動のための募金箱を置いています（笑）。人数が多い時は（10 人以上）連絡していただくとありがたいです。2 人または 3 人が私の名によって集まるところには、私もその中に入ります（マイ 18.20）キリストに出会えますように。 Sr. 山添睦美

9月23日（月・振休）、連日の猛暑も和らぎ朝から気持ちの良い青空の中、筑後地区 6 教会より神父様・シスター方をはじめ総勢 200 人を超える信徒が、大洗労働者体育センターに集いレクリエーション大会による交流を楽しんだ。昨年より参加者が一段と増え、新しいゲーム内容もあり、小さな子どもから高齢者の方まで楽しめるプログラムとなった。最初に開会挨拶を行った、大会担当司祭の浦川務神父様（今村・本



多くの青年たちも参加！

てチームを分けるためのじゃんけん列車をしながら、笑顔のうちに大会がスタートした。各教会混合の 4 チームに分かれ、点数を競っていった。ゲーム内容として、オリピック・パラリンピックを意識してカローリングやペタンクなどが初めて採用され、今までない歓声が上がるとも盛り上がり。例年行われていた玉入れやスリッパ飛ばし大会も、年齢問わず歓声が上がっていた。○×クイズでは、2027 年に迎える

スポーツの秋！
筑後地区レクリエーション大会開催
久留米教会青年会指導による準備体操の後、自己紹介を交えて、いろんな教会の方と交わっていきましよう。というお話が印象に残っている。
郷教会主任の

筑後地区レクリエーション大会開催

9月23日（月・振休）秋分の日、「シスターと一緒にイエスの声を聞いてみませんか Part IV」の集いを開いた。11 人の若者が参加した。今回は「私に与えられた賜物」というテーマで、午前中は聖書のタラントンのたとえ話（マタイ 25・14-30）を読み、振り返り、グループに分かれて分かった。昼食は修道院の食堂でシスターたちと一緒に食事をして交流を深めた。午後はショールームを見て感じ、気づいたことを個人で振り返り、グループに分かれて分かった。この後のプログラムは「賜物に気づくエクササイズ

福岡教区創立 100 周年にちなんで、信徒の皆さんも一喜一憂していた。
久留米教会青年会のメンバーも数人参加し、ゲーム中の審判の補佐や準備・後片付けを行いました。
久留米教会 中島 望

「私に与えられた賜物」を探して

ズーで、庭や修道院の裏の河川敷を好きなようにゆつくり歩き回り、「私に与えられた賜物は何か」と問いながら、「ここに賜物がある」と感じさせられるものを探し、今の私の賜物だということを出会った持ち帰り、振り返り、全体で分かち合った。見つけた（シンボルを持って）できない人は記憶で）シンボルを分かち合う時、清々しさと力強さを感じた。

この集いを通して、一人ひとりが自分に与えられた賜物があることを知った。それが何かまだわからないかもしれないが、自分に与えられた賜物を発見することは、神様をもっと知り、「神様が私を用いよう」と望んでおられることにも気づくことができる一歩となった。



思い思いにアイスを楽しめる楽しいパーティー

聖心のウルスラ宣教会修道会
Sr. 水田由美子
全てのセッションが終わり、おやつのアイスパーティーでは、共に分かち合った仲間と好きなデコレートで楽しく過ごし、プログラムは終了した。神に感謝！！

殉教者に祈りを捧げ
水巻・直方教会合同巡礼旅行

9月23日（月・振休）熊本県の花岡山に、水巻・直方教会（主任・谷口尚志神父）信徒 54 人（子ども 4 人含む）で合同巡礼に向かいました。巡礼の目的は、私たちの教会が北九州地区にあり、小倉教会で殉教した加賀山単人にゆかりのある、小笠原玄也とその一家の殉教地である花岡山で、江戸時代の厳しいキリスト弾圧の中で、キリストの愛に生きた人々にお祈りをささげることです。

バスは予定通りにまず手取教会（主任・櫻井尚明神父）に到着しました。「あいさつは心の扉を開く鍵」をスローガンとされているとても温かい教会で、ミサの中で申東輝（シン・トウキ）神父様（手取・帯山教会助任）が「今日は祈りの力が通じ、神様の恵みで大変良い天気になりました。このことだけで充分今日は幸せな一日になります」と仰ってくださいました。そして直方教会の 2 人の子どもが初めて侍者を経験し、上手にミサの手伝いができました。

和やかな食事の後、殉教者墓地を目指し、徒歩グループと車グループに分かれて花岡山へと向かいました。大きな石の下に遺体が実際に埋葬されている、世界でも稀な殉教者の聖なる墓に着き、自らの信念を貫いた先人たちに全員でお祈りを捧げました。

この巡礼に参加した方からは「とても有意義な時間を過ごしました。今日の経験をこれからの信仰生活に活かしたいです」との声がありました。帰りのバスでは談笑したりビンゴゲーム等を行い、楽しく充実した巡礼になりました。

報告＝嶋立陽子（直方教会）



殉教者の墓の前で心を燃やし 記念の集合写真

垣根を越えて一つに
南粕屋教会主催巡礼旅行

10月14日（月・祝）、南粕屋教会（主任：寺浜亮司神父）主催で行われた巡礼旅行には、吉塚教会（主任：寺浜神父）・光丘教会（主任：十時伸治神父）・笹丘教会（主任：マイケル・ヒルデン神父）他、福岡地区のいくつかの教会からも参加があり、総勢 80 人、大型バス 2 台で、行楽の秋の 1 日感謝と祈りのうちに過ごした。

最初に訪れた武雄教会で出迎えたイ・ハヌン神父（武雄・鹿島教会主任）は、昭和 51 年に嬉野町の未信者の民家で見つかったという江戸時代の踏み絵と推定されるものを紹介し、この地の殉教の歴史に触れた。そして「巡礼者のための祈り」を捧げ、ルカ福音書 24 章のエマオの弟子たちの箇所を朗読したのち「巡礼の旅は、時間を割いて歴史を学び、エマオの弟子たちのようにともに歩んでおられるイエスに気付くきっかけとなる」と話し、旅程の安全と成果を願い灌水を行った。次に訪れた鹿島教会では、イ神父主司式、共同司式に寺浜神父・十時神父・ヒルデン神父のミサの後、会場や昼食の準備などで信徒会長をはじめ、信徒や、イ神父が園長を務める鹿島カトリック幼稚園の職員たちからも心からの歓迎ともてなしを受けた。そして昼食時には、イ神父がスクリーンを使って肥前の国の教会と殉教の歴史を説明した。

ミサ説教でのイ神父の言葉「国という垣根を越えて私を迎え入れてくれた皆さんに今日の福音の良きサマリア人が重なる。垣根を越えるということは勇気が必要。また、サマリア人は旅の途中だったが旅はまさに垣根を越える瞬間。人生の旅路を、垣根を越えて一つになるために歩み続けていけたらと思う」が心に残る。「時間をかけて勉強・準備してくれたことだろう」とイ神父に感謝を表していた寺浜神父。信徒がバスを降りるたびに「信仰の忘れ物がないように！」と声をかけて笑わせていたが、信徒の顔には旅程の疲れどころか、時間を追うごとに信仰に満ちた輝きが増していた。帰路の買い物時間も十分に取っており、ソフトクリームを片手にあちこちで話に花も咲く、確かに「垣根を越えて一つに」なった巡礼の旅であった。

イ神父（右）へ、ウクライナ支援の一環で、教会で育てているひまわりの苗を贈呈する南粕屋教会・松原勝義信徒会長（左）



イ神父（右）へ、ウクライナ支援の一環で、教会で育てているひまわりの苗を贈呈する南粕屋教会・松原勝義信徒会長（左）

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん 一緒に働いてみませんか
URL : http://www.st-mary-med.or.jp/

☆歌え神に新しい歌
テゼ共同体の歌 第 2 集

短いな純粋な歌は「祈り」であり、多くの人の心に安らぎと癒しをもたらします。

税込価格 1210 円
サンパウロ発行

☆婦人相談員物語くその証言からわたしの歴史を紡ぐ

村本邦子・松本周子（著）

婦人相談員は売春防止法によって設置され、性暴力、DV、人身売買など、さまざまな困難を抱える女性たちに寄り添ってきた。これまであまり光をあててこられなかった婦人相談員の証言から、相談員たちが出会ってきた女性たちの物語を紡ぎ、女性の苦難とつながりの物語を記録したものである。

税込価格 2970 円
国書刊行会発行

BOOK 読み専科

婦人相談員物語

共に生きる。痛みを知る。涙を流す。笑顔をみる。愛を伝える。希望を語る。人生の物語を、大きな声で読み聞かせよう。

年間目標

互いに支え合う 交わりの教会となる

熊本地震復興支援 西原村復興寄姫伝説米 購入支援のお願い



加藤ご夫妻

皆様、いつも温かいご支援をありがとうございます。今年も風水害にこそ見舞われませんでした...

世間を騒がせている深刻な米不足のために、おいしい米が穫れる滝地区に買い出しが殺倒し、激しい争奪戦を繰り返してあります...

NPO法人・阿蘇 代表：加藤 義明

*お米の注文は各小教区にある注文書でお申し込み下さい。また右記QRコードからも注文書がダウンロード出来ますのでご利用ください。



教区HP http://fukuoka.catholic.jp/help/

社会福音化委員会「正義と平和・人権」部門 祈りと分かち合いのひととき フランシスコ教皇の社会的な回勅から学ぶ カトリック教会の教え

[日時] 11月23日(土・祝) 10時~16時 [場所] 大濠カトリック会館 宣教養成センター ※参加無料



マリアの宣教師フランシスコ修道会 一祈りの集い in KUMAMOTO

[日時] 11月23日(土・祝) 14時~17時 [場所] マリアの宣教師フランシスコ修道会 (FMM) 熊本修道院 (熊本市西区島崎 6-1-27)



聖心のウルスラ宣教師修道会 ウルスラ祈りの集い

[日時] 11月23日(土・祝) 16時から [場所] 聖心のウルスラ宣教師修道会 聖堂 [問合せ先] 092-512-0033



福岡地区司祭団主催 福岡地区研修会 「共に歩む教会のあり方」

[日時] 11月24日(日) 14時~16時30分 [場所] 旧福岡カトリック神学院 新館ホール [講師] ヨゼフ・アペイヤ司教 (福岡教区長)



召命を共に祈る会

福岡地区 11月19日(火) 13時30分~ 大名町教会 [ミサ] 全爽訓神父 (箱崎教会協力・聖ドミニコ会) [問合せ先] 092-921-4532 山口



各種団体の定例会

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報11月号」、または右記QRコードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス https://fukuoka.catholic.jp E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板

会合と催し

11月のこよみ

第75回 福岡市民クリスマス

日時: 12月9日(月) 開場 18時 開演 18時30分 場所: 福岡市民会館大ホール 内容: クリスマスメッセージ



森山信三司教(大分教区長) 北田康広(全盲の賛美伝道者) クリスマスコンサート 福岡市民クリスマス聖歌隊による賛美と喜びの歌声

※入場無料 ※詳細は右記QRコードからご確認ください。



真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 聖性への招き 日時: 11月14日(木) 10時~15時 内容: 義のために迫害される人々は、幸いである

Chuyển Đi học hỏi và tham gia các hoạt động của Nhật Bản năm Giuse Nguyễn Quang Thi (Viet Nam)

Sau 6 tháng học ở Tiểu chủng viện Xã Đoài, được nghỉ hè, tôi về quê thăm Ba Mẹ sau một thời gian dài không gặp mặt. Tiện dịp, giúp Ba Mẹ làm vườn cà phê, tiêu và sầu riêng.

Ngày trở lại Giáo xứ Hikarigaoka vào sáng Chúa Nhật, nên có dịp tham dự thánh lễ, gặp gỡ, trò chuyện cùng anh chị em giáo dân. Cuộc gặp gỡ buổi sáng thật vui.



ティ神学生の日本語授業の様子

Tiếp theo tuần sau đó, tôi tham gia khóa học tiếng Nhật tại Tòa Giám Mục. Từ khóa học đó, tôi đã được trải nghiệm từ tiếng nhật căn bản đến các văn hóa của Nhật như: Thư Đạo, Trà Đạo...

Sau 2 tuần học tiếng Nhật, tôi có dịp về lại Giáo xứ Saga, nơi tôi đã từng tham dự thánh lễ suốt 3 năm, khi đang còn sinh sống và làm việc ở Tỉnh Saga.

Chia tay Giáo xứ Saga, tôi đi Kumamoto miền Amakusa để tham gia cắm trại với các trẻ em. Đó cũng là lần đầu tiên tôi được cắm trại mùa hè ở Nhật.



Thời gian này, tôi còn tham gia trại hè giới trẻ FYCC (Fukuoka young catholic camp) tổ chức tại Đại Chủng Viện Fukuoka. 3 ngày 2 đêm, ngoài những hoạt động vui chơi, tôi ấn tượng với "Giờ thấp nền cầu nguyện".

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

- 美野島司牧センター ホームレスの方に温かい食事と衣類 毎週火曜日10時
- 大濠カトリック会館・宣教養成センター ミニアサロン大濠 第1・第3水曜日10時
- 真命山諸宗教対話センター 第1・第3金曜日 第4木曜日10時

編集後記

10月21日(月)・22日(火)、カトリック中央協議会(東京)で開催された全国教区広報担当の広報活動の現状と課題など

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談 セクシュアル・ハラスメント相談窓口 電話 080-2694-4182

氏から講義を受けた。最後の派遣ミサで、司教協議会・広報担当の酒井俊弘司教(大阪高松大司教区)は、「多くの学びや気付きをもたらしたと思いますが、一番いけないことは『明日から頑張ろう』です。先延ばしすることです。

今日、今からやりましょう。例えば、紹介された本を帰りに本屋で買って帰るとか」と話されハッとさせられた。司教は、「今日の別腹は明日の脇腹」という言葉も聞いたことがあるような...」とも付け加え、聖堂は爆笑に包まれた。